

雑草対策 & もみ殻堆肥化プロジェクト

令和6年に向けた米づくり研修会 開催要領

※ J A 越前たけふ主催

無農薬栽培について考えてみませんか

雑草対策に係るビデオ研修会

日時 令和6年1月10日(水) 14時～16時

会場 越前市生涯学習センター eホール

内容 ビデオ解説を聞きながら学習します。



初心者、歓迎。
気軽に学べて、
申込みは不要。



主催：越前市有機農業産地づくり推進協議会・越前市



越前市と県立大生物資源学部 有機農業推進へ連携協定 収量安定など解決図る

有機農業を推進している越前市は三日、県立大生物資源学部と戦略的なパートナーシップを結んだ。収量安定など栽培技術に課題が多い有機農業に対し、大学の高い専門性や知見などを生かして解決を図るほか、スマート農業など次世代農業にも連携して取り組んでいく。

(藤井雄次)

農林漁業における環境負荷低減を目指して県が昨年策定した計画で越前市はモデルの先進地区「特定区

所であり、山田賢一市長と一農業に取組む農事組合長
県立大生物資源学部の日野 人ワタル氏と広瀬の
隆雄学部長
学科の木元
席し、有機
で協力して
た。

この日は
業の推進に
フセレモニ
丹南農林総
越前たけふ

有機農業の
を交わ
ずなど
穀は微
品質な
肥料が
業を進
ガス製
といっ

専門的知見、
現場課題を踏まえ
検討会や研修会を実施

月 日	時 間	内 容
12月21日(木)	13:00	受付
	13:30	開会
	13:30～13:40	主催者挨拶
	13:45～14:30	インセンティブ買入制度共励会表彰式
	14:40～15:30	講演：籾殻(未利用資源)の有効活用について 福井県立大学 生物資源学部 創造農学科 学科長 木元 久 教授
	15:40～16:10	今年より実施の環境と今年より実施の米づくり推進

2023年7月4日 県民福井

越前市の有機農業は3本の柱で推進

1 規模感のある有機農業の推進

メガ有機農業（ファーム広瀬方式）の水平展開
JA越前たけふの取組み

2 有機栽培技術のスマート化

経験則を言語化し、スマート技術で誰でもできる農業へ

3 有機農産物の更なる高付加価値化

販路拡大や6次化による商品開発で儲かる農業へ

2 有機農業にスマート技術を応用（収量の増加）

- ・ 生育ステージを画像判断し、
有機農業における追肥適期を特定する実証
- ・ カメラを設置し、画像データの収集と分析開始



協力：NTTデータ

2 有機農業をスマート技術で

R6では

追肥タイミングを判断する実証を継続

- ・従来、追肥タイミングの判断や食味と収量の両立は困難とされてきた



有機米の収量と品質の向上につながる

2 有機農業にスマート技術を応用（作業の効率化）

- ・ドローンを使った「有機肥料」の散布実証
衛星画像データとの連携も



ファーム広瀬、福井県、クボタ本社と



2 有機農業にスマート技術を応用（水管理の効率化）

・有機農業における水管理の効率化・自動化



クボタ W A T A R A S

クボタとの打ち合わせ

越前市の有機農業は3本の柱で推進

1 規模感のある有機農業の推進

メガ有機農業（ファーム広瀬方式）の水平展開
J A 越前たけふの取組み

2 有機栽培技術のスマート化

経験則を言語化し、スマート技術で誰でもできる農業へ

3 有機農産物の更なる高付加価値化

販路拡大や6次化による商品開発で儲かる農業へ

3 有機農産物の6次化、販売促進

学校給食に

「コウノトリ呼び戻す農法米」(特裁1)を導入

※市内全小中学校24校、1週間のみ



越前市内の全小中学校の給食で23日から30日まで、無農薬無化学肥料で栽培された「コウノトリ呼び戻す農法米」が順次提供されている。

児童たちが、生き物との共生の中で収穫された自然の恵みをかみしめている。市は昨年度、一部学校の給食に白山・坂口地区をは

コウノトリ米「甘い」

越前市 全小中の給食で提供



コウノトリ呼び戻す農法米の給食を味わう
王子保小児童=24日、越前市の同校

じめ市内で栽培された同農法米を取り入れており、本年度は全校に対象を広げた。同市のふるさとこの日が来る10月に合わせ、自校式給食の全小学校と武生二中坂口分校、武生五中、南越中では23日から27日まで連日提供選択制給食のスクールランチを採用するその他5中学では23、30日に取り入れる。近くの田んぼに「コウノトリ」が飛来する王子保小では24日、全校児童約250人が同農法米の米飯と地元産鶏卵のかき玉スープなどの「ご飯より甘くて新鮮な感じ」がしておいしいと笑顔で箸を進めていた。(細川善弘)

2023年10月27日 福井新聞

3 有機農産物の6次化、販売促進

～ コウノトリブランド ～

商品の拡充、商品パッケージ等補助



3 有機農産物の6次化、販売促進

- ・オーガニック食材の和膳を試作、試食会・アンケート実施
- ・有機農産(加工)品を主とした常設販売拠点の整備



		回答者1	回答者2	回答者3	回答者4	回答者5	回答者6	回答者7
1	量が多いか/少なかったか	多かった	少なかった	ちょうどよかった	無効			
2	量が少ないか/多かったか	多かった	少なかった	ちょうどよかった	無効			
3	お味はいかがでしたか	良かった	悪くなかった	普通				味も作りわかれず美味しくなかった
4	価格はいかがでしたか	高い	安い	普通	無効			
最も美味しかったお料理を2つ挙げてください								
良かったと思われる点を2つ挙げてください								
アンケート調査								
よくはなかったと感じる点を2つ挙げてください	価格で満足できないです	色味に工夫して欲しい	そばは*	量感がよかった	そばは*	そばに食べたい	おろしそばをデザートの前にはず方が良い	おろしそばをデザートの前にはず方が良い
料理全般にわたり、自由に感想をお聞かせください								



3 有機農産物の6次化、販売促進

特裁①吟醸酒

有機JAS米

軽井沢など、
オーガニックを求める層の
多い市場を開拓

有機JAS米
手焼きせんべい



軽井沢町直売所での売り場の様子

3 有機農産物の6次化、販売促進（脱炭素）

越前市一体型 温室ガス削減

市、JA越前たけふ、生協、市社協 農産物生産から消費まで

越前市とJA越前たけふ、県民生活協同組合、市社協、農協の四者は二十八日、地域一体型の食の温室効果ガス削減運動に関する連携協定を締結した。

市環境基本計画や市食と農の創造ビジョンに基づき、生産者や事業者、市民、行政が一体となって温室効果ガス削減運動を推進する目的。農産物の生産から消費まで一連の流れの中で、生産者や事業者、市民が、それぞれの役割に

（清兼千代）

2023年6月29日 日刊県民福井

た活動を展開することで、温室効果ガス削減や環境問題に対応していく」と決意を述べた。

協定書を手にする（手前右から）山田市長、福田会長、松宮理事、土本組合長、越前市の越前たけふ農協会館で

締結式は、越前市本多の越前たけふ農協会館で行われ、JA越前たけふの土本俊三組合長、県民生協の松宮幹雄理事長、市社協の福田修治会長、山田賢一市長が出席。山田市長はあいさつで「生産から流通・販売、廃棄まで、行政だけでなく民間企業や市民も含め

市、農協、生協、市社協

食と農の各局面で

温室効果ガス削減を目指す!!

3 有機農産物の6次化（新幹線開業に合わせ）

- ◆ ナチュラルワイナリー
 - ・ 耕作放棄地 5 h a 開墾
 - ・ ワイン用ブドウ栽培
 - ・ 併設レストラン 3月開業

- ◆ イチゴハウス増設
併設レストラン 2月開業



農水省
強い農業づくり総合支援交付金活用

「食と農」で誘客機運



越前たけふ駅周辺

親子が農園で収穫したトマトでソースを自作し、生地に塗って焼き上げた手作りピザを味わう。観光農園「明城ファーム」（同市杉崎町）が目指すのは、そんな体験ができるイタリアンレストランだ。イチゴのスイー

観光農園、ワイナリーがレストラン：



6次化

「食と農」は、素材を生かす産取り入れた地場産物のコース料理を提供。食器や調理伝統工芸を随所に営会社の西野恒樹の食材は全国に誇「食材を本来の価格で仕入れ、生上につなげていき

市環境農林部は、駅近

2023年8月7日 福井新聞

どと連携し、自然体験を合わせたさらなる誘客を意図している。

■価値に見合った価格で白山地区で栽培したブドウを主原料とするワイナリー「ツクス・スリー・エスター

ご清聴ありがとうございました

